

SHARP

加湿空気清浄機 **床置型**

工事説明書

形名

KI-M1800



もくじ

安全上のご注意	2
各部のなまえ	5
操作パネルについて	6

作業前にお読みください	7
設置スペースと寸法図	7
付属品	7
準備するもの	7
設置条件	8

設置する	9
1. 搬入する	9
2. 転倒防止対策をする	9
3. 給水ホースと排水ホースを接続する	11
4. 電源プラグをコンセントに差し込む	11
5. 乾式集じんフィルターを袋から取り出す	11

試運転をする	12
試運転の流れ	12
1. 薬液カートリッジを取り付ける	12
2. 電解水の生成を確認する	13
3. 噴射ノズルの噴射状態を確認する	15
4. 試運転をする	19
5. 付属の「チェックシート」を作成する	裏表紙
6. お客様に製品を引き渡す	裏表紙

お客様へ

- 本製品の設置工事は、必ず販売店または専門業者に依頼してください。

販売店様へ

- 設置工事が終了しましたら、工事説明書をお客様へお渡しください。また同梱の保証書・付属品も必ずお客様にお渡しください。

この製品の性能・機能を十分に発揮させて、また安全を確保するために、正しい施工が必要です。

設置工事前にこの工事説明書（「安全上のご注意」）を必ずお読みください。

この工事説明書は、いつでも見ることができる所に必ず保存してください。

安全上のご注意 (1) 必ずお守りください

人への危害、財産への損害を防ぐため、お守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使いかたで生じる内容を、次のように区分して説明しています。

 警告 「死亡または重傷を負うおそれがある」内容	 注意 「軽傷を負う、または財産に損害を受けるおそれがある」内容
--	--

■ お守りいただく内容の種類を、次の図記号で説明しています。

 してはいけないこと	  しなければならないこと プラグを抜く
---	---



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています

電源プラグや電源コードは



- 配線器具の定格を超える使いかたや交流 100V 以外では使わない
日本以外では使わない
(火災・感電の原因)
- 延長コードを使用しない・タコ足配線をしていない
(火災・感電の原因)
- 電源コードをネジなどで傷付ける・加工する・無理に曲げる・引っ張る・ねじる・束ねる・高温部に近づけるなどしない
(電源コードが破損し、火災・感電の原因)
- 重いものを載せたり挟み込ませたりしない
(電源コードが破損し、火災・感電の原因)
- ぬれた手で抜き差ししない
(感電の原因)



- アース付コンセント (3P・AC100V) を単独で使う
(故障や漏電による感電・火災・焼損の原因)
上記のコンセントを使わない場合は、付属の 3P-2P 変換アダプタを取り付けて確実にアースを接続してください。ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線には接続しないでください。
- 電源プラグを差し込むときは、電源プラグにホコリの付着が無いこと、またコンセント側にもホコリの付着・詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根本まで確実に差し込む
(ホコリの付着・詰まり、がたつきによる火災・感電の原因)
コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。

設置工事時は



- 改造したり、部品を変更したりして使うことは絶対にしない
(火災・感電・水もれ・本体転倒の原因)



- 設置工事・試運転は、専門の施工業者がおこなう
お客様自身で設置・試運転をしない
(不備があると、本体転倒・水もれ・感電・火災・けがの原因)
- 設置工事は、この工事説明書に従って確実におこなう
(不備があると、本体転倒・水もれ・感電・火災・けがの原因)
- 設置工事は必ず複数人でおこなう
(ひとりで設置すると思わぬ事故の原因)
- 設置工事部品は、必ず当社付属部品、および指定の部品を使用する
(当社指定部品を使用しないと、本体転倒・水もれ・火災・感電の原因)
- 必ず転倒防止対策をする
(本体転倒・けがの原因)
当社指定のアンカーまたは転倒防止板を使用してください。
- 製品の満水時質量 (約 150kg) に十分に耐える水平で安定した場所に設置する
(強度が不十分な場所や不安定な場所は、本体転倒・けがの原因)
- 製品のカバーや内蔵物をすべて取り付ける
(不備があると、故障・水もれ・感電・火災・本体転倒の原因)



- **設置後、必ず試運転をしてからお客様に製品を引き渡す**
安全に運転できることを確認してから、お客様に引き渡してください。



- **薬液の誤飲・接触・付着・吸引の際は医師の指示に従う**
重大な症状を引き起こす可能性があります。発生時はすぐに作業を中断し、受診して医師の指示に従ってください。

専用薬液カートリッジ（希塩酸） 取り付け時は



- **薬液を飲まない、薬液カートリッジ内のガスを吸入しない**
（炎症や障害を引き起こす原因）
- **薬液を目に入れない**
（失明の原因）
万が一目に入った場合は、こすらずに水で十分に洗い、すぐに受診してください。
- **薬液に触れない**
（酸成分による火傷や炎症を引き起こす原因）
- **薬液を衣類に付着させない**
（火傷や炎症を引き起こす原因）
付着した場合は水で十分に洗い流してください。アルカリ性の洗剤・漂白剤は絶対に使用しないでください。
- **薬液カートリッジを強くにぎったり、乱暴に扱わない**
（薬液が漏れたり思わぬ方向に飛び出す原因）
- **薬液を本体や金属類に付着させない**
（薬液の腐食性によりサビが発生する原因）
薬液が付着した場合は十分にふき取ってください。
- **薬液を他の薬剤（特にアルカリ性や強い酸性の液体）と混ぜない**
（有毒ガス発生の原因）



- **専用薬液を使用する**
（他の薬液を使用すると故障や性能低下の原因）
- **薬液を取り扱うときやふき取るときは、ゴム手袋などで皮膚を保護する**
（酸成分による火傷や炎症を引き起こす原因）
- **薬液がこぼれたときは十分にふき取る**
（薬液の強い腐食性により、本体や周囲のサビや変色を引き起こす原因）

安全上のご注意 (2)



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています

電源プラグや電源コードは



プラグを抜く

- 電源コードは必ず電源プラグを持って抜く
(火災・感電・ショートの原因)

設置工事時は



- 本製品は屋内用です
以下の場所には設置しない
 - ・非常口や階段前などの避難経路
(災害時の避難をさまたげる原因)
 - ・揺れや振動の多い場所
(故障・水もれの原因)
 - ・直射日光や雨などが当たる場所
(故障・感電・火災の原因)
 - ・凍結しやすい場所
(故障・配管破裂の原因)
 - ・可燃性・揮発性ガスが発生する場所
(火災の原因)
- 濡れた手で操作パネルや電源スイッチを触らない
(感電の原因)



- 本体に衝撃を与えたり、寄りかかったりしない
(故障・本体転倒・けがの原因)
- ホースを無理に引っ張る・切断する・加工する・熱器具を近付けるなどしない
(本体転倒・けが・破損・水もれ・故障の原因)



- 手袋を着用して施工する
(けがの原因)
- 扉を開閉するときは、周囲の人や指をはさまないように注意する
扉を開けて作業するときは、ストッパーで扉を固定する
(扉に当たるなどケガの原因)
- 水道水を使用する
「水道法（昭和32年法律第177号）第4条第2項の規定に基づく水質基準に関する省令」（平成15年厚生労働省第101号）に適合」または、飲料水基準を満たした井戸水などを使用してください。
- 設置面のがたつきや固定金具のゆるみが無いことを確認する
(本体転倒の原因)

使用上のご注意

- 以下の場所には設置しない
 - ・喫煙所などニオイの強い場所
本製品は有毒ガスや物質の分解、除去はできません。
 - ・腐食性ガスが発生する場所（故障・サビ発生の原因）
 - ・フッ素樹脂やシリコーンを配合したスプレーや化学薬品を使う場所
(プラズマクラスターイオンが発生しにくくなる原因)
 - ・テレビやラジオの近く（映像の乱れや雑音の原因）
テレビやラジオから1m以上離して設置してください。
- 吹出口・吸込口をふさがない（故障や風量低下の原因）
付近に物を置いて、吹出口・吸込口をふさがないようにご注意ください。
- 水道水以外の水（温水、アロマオイルなどを入れた水、アルカリイオン水など）は使わない
(故障の原因)
- 除菌水取出しホース出口にバルブなどを取り付けない
本製品は先止めできません。出口に流れを止めるものを設置しないでください。
- 作業前に養生する
本体および周囲の傷や水もれなどによる損害を防ぐため、必ず養生をしてから作業をおこなってください。
- 5～40℃の屋内に設置する
(結露や水道水凍結などによる故障の原因)
- 給水圧 0.1MPa 以上の給水管に接続する
(給水圧が低いと正常に動作しない原因)

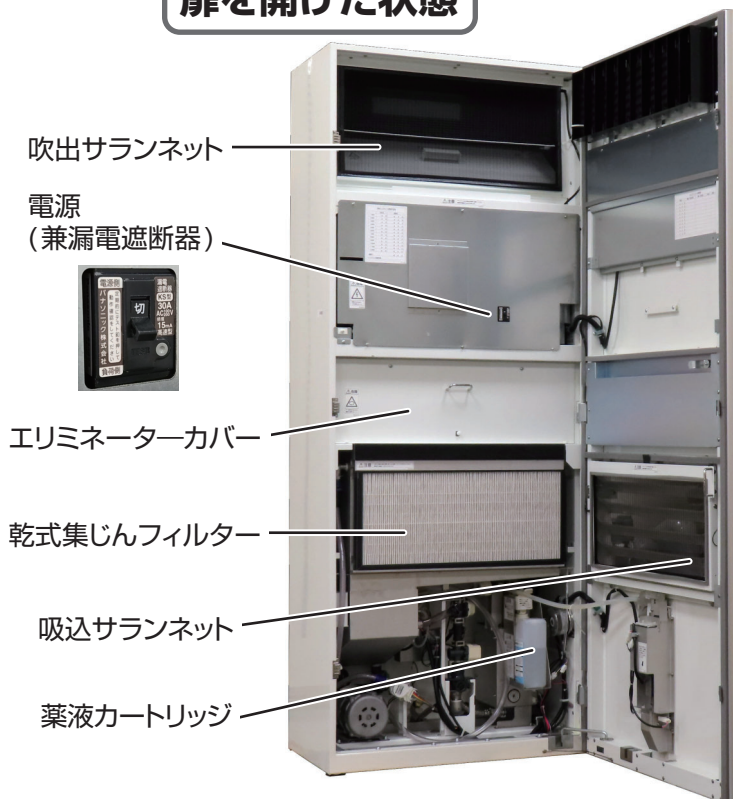
各部のなまえ

イラストと写真はイメージです。実際の物と異なる場合があります。

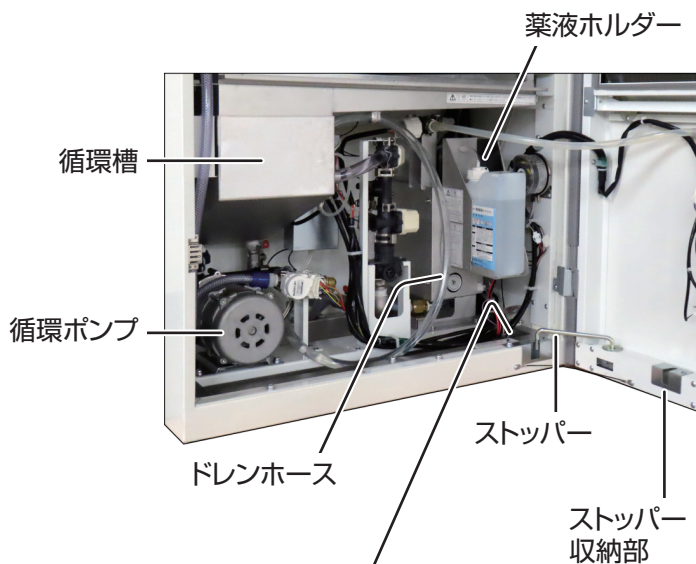
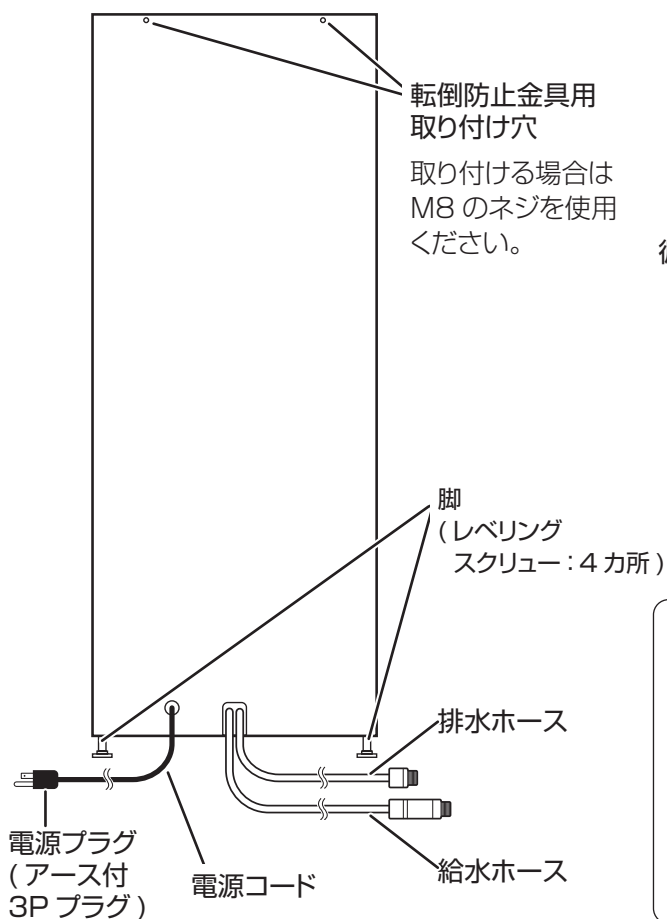
本体



扉を開けた状態

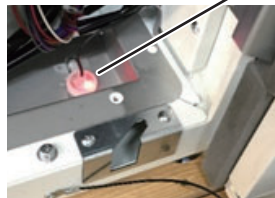


背面



漏水検知ランプ

緑: 漏水無し / 赤: 漏水有り



ランプが赤の場合は、本体への給水バルブを閉めてから、運転を停止し、お買いあげの販売代理店またはメンテナンス契約先に点検を依頼してください。

操作パネルについて

運転中または停止中に操作パネル内を押すと、操作画面に変わります。

洗浄中 洗浄中表示 / **乾燥中** 乾燥中表示

本体内部を洗浄中（または乾燥中）に表示します。

洗浄中（または **乾燥中**）を押すと洗浄運転（または乾燥運転）が停止します。

エラー表示 / **メッセージ表示**

お知らせがあるときに表示します。

エラー表示 / **メッセージ表示** を押すとお知らせ内容を表示します。

風量設定

風量 [ECO(最小)～急速(最大)] を選び、
風量モード [AUTO または MANUAL] を選ぶ。

[AUTO] : 「除菌・加湿」運転時に部屋の湿度によって
自動で風量を切り換える。

(「除菌・加湿」運転が [OFF] の場合は、
[MANUAL] と同じ運転になります)

[MANUAL] : 設定した風量で運転する。

「除菌・加湿」運転設定

[AUTO] : 「除菌・加湿」運転をする。

(本体内部に除菌水を噴射しながら部屋を加湿する)

[OFF] : 「除菌・加湿」運転をしない。

運転モード設定

[停止] : 運転を停止する。

[連続] : 連続運転する。

(運転開始から 12 時間ごとに自動洗浄をする)

[タイマー] : 運転と洗浄の開始時刻・曜日を設定して運転する。



メンテナンス業者
専用ボタン

本体内の循環槽の水を
排水する

除菌水を取り出す
(ボタンを押すと取出口が開く)

取扱説明書 (簡易版) を表示

メニュー名	設定内容
画面輝度	⇒ 画面の明るさ調整
画面条件	⇒ 操作パネルのロック/解除 ⇒ 運転中と停止中の表示設定
加湿停止設定	⇒ 加湿運転停止の湿度設定
スケジュール	⇒ タイマー設定(運転曜日・時刻の設定) ⇒ 洗浄運転をする
除菌・消臭設定	⇒ 除菌力・消臭力設定
その他	⇒ 日付・時刻設定 ⇒ 吹出口LED(青色)の点灯/消灯 ⇒ 温度・湿度の表示/非表示

- 詳しい操作方法は、取扱説明書 (詳細版) をお読みください。
下記 QR コードからダウンロードできます。
(ダウンロードに必要な通信費は、ダウンロードをおこなった方のご負担になります)

取扱説明書 (詳細版)

https://jp.sharp/restricted/support/manual/air_purifier/kim1800_mn.pdf



■ QR コードについて
QR コードはデンソーウェーブの登録商標です。

作業前にお読みください (1)

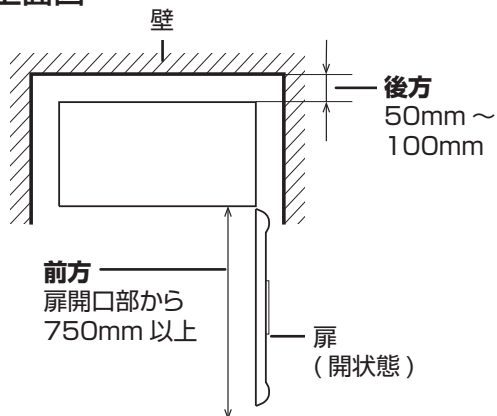
設置スペースと寸法図

メンテナンス作業のスペースを考慮し、十分な設置スペースをとってください。

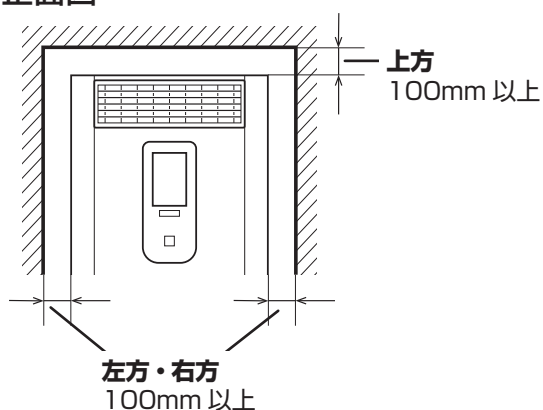
ページ の数字は、主な説明のあるページを示しています。

設置スペース

上面図

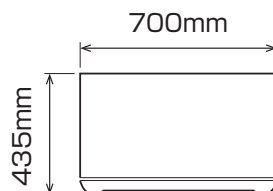


正面図



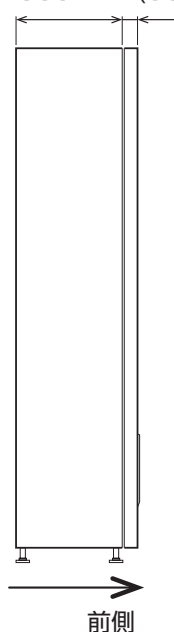
寸法図

上面図

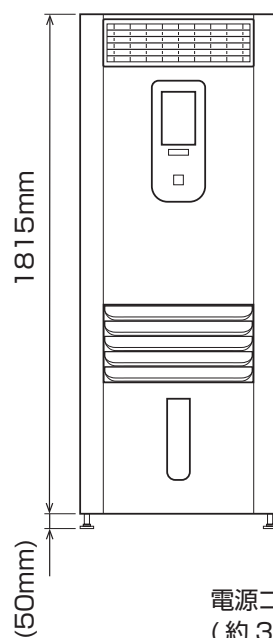


側面図

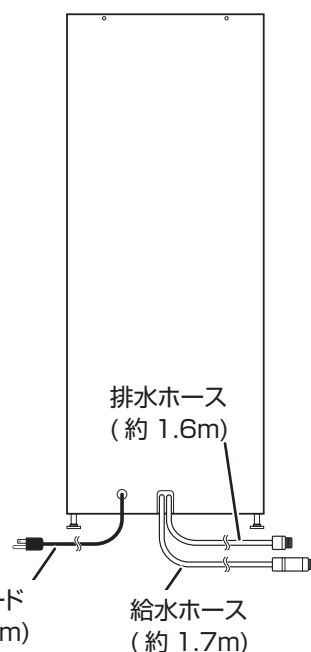
380mm (55mm)



正面図



背面図



付属品

- ①薬液カートリッジ (希塩酸: 1L) .. 1 個
- ② 3P-2P 変換アダプタ 1 個
- ③床用固定金具 1 式
※固定金具 4 個とアンカー 4 本入
※①～③は付属品箱に収納
- ④薬液用ノズルキャップ 1 個
※本体の薬液ホルダー内に収納
- ⑤クロール試験紙 1 式
※本体の取出口内に収納
- ⑥扉用カギ 2 本
- ⑦保証書
- ⑧工事説明書 (本書)
- ⑨チェックシート
※記入後、所定の宛先へ送付 裏表紙

準備するもの

- ①転倒防止用設備
(アンカー、転倒防止板など)
※付属のアンカーの取り付けに必要な工具 9 ページ
- ②シールテープ
- ③配管材 (バルブ、ソケットなど)
- ④モンキースパナ (2個)
- ⑤水平器
- ⑥油性ペン
※給水ホースと排水ホースの継手接続部分に合印を付けるために使用 19 ページ
- ⑦メジャー

- ⑧作業用手袋
- ⑨ゴム手袋
※薬液カートリッジを取り付けるときに使用
- ⑩ pH 試験紙
- ⑪クロール試験紙
- ⑫バケツ
- ⑬手動ポンプ

※あらかじめ市販の手動ポンプの吸込ノズルを切って長さを 10cm 程度にしておく



作業前にお読みください (2)

設置条件

下記の条件を確認してから専門の施工業者で設置してください。
配管工事・電気工事が必要な場合は、本体を設置する前に各専門の施工業者に依頼して工事をおこなってください。

設置できる場所

- 5℃～ 40℃の屋内
- 製品の満水時質量 (約 150kg) に十分に耐える水平で安定した場所

設置できない場所

- 非常口や階段前などの避難経路
- 設置スペース (メンテナンス作業が可能なスペース) がとれない場所
- 揺れや振動の多い場所
- 屋外および直射日光や雨などが当たる場所
- 凍結しやすい場所
- 喫煙所などニオイの強い場所
- 腐食性ガスが発生する場所
- 可燃性・揮発性ガスが発生する場所
- フッ素樹脂やシリコンを配合したスプレーや化学薬品を使う場所 (プラズマクラスターイオンが発生しにくくなるため)
- テレビやラジオの近く (テレビやラジオから 1 m 以上離して設置する)

転倒防止対策

- 付属のアンカーまたは市販の転倒防止板を使用する

9 ページ

<転倒防止板を使用する場合>

- 転倒防止板 サイズ
 - ・ 地階および 1 階に設置する場合 : 800L (長さ 800mm)
 - ・ 2 階以上に設置する場合 : 1100L (長さ 1100mm)
- 本体の背後に壁面がある場所に設置する (背後にガラスなどがある場所は避ける)
- 以下の場所では本体背面に転倒防止金具を取り付けるなど、他の転倒防止対策も併用する
 - ・ 3 階建て以上の建物の最上階および屋上
 - ・ 高さ 60m を超える建物のすべての階および屋上

給排水について

<給排水共通>

- 接続用プラグのネジは、Rc1/2(15A) (テーパ雌ネジ) を使用する
[本体の接続プラグのネジは R1/2(15A) (テーパ雄ネジ) です]
- 平行ネジは使用しない。(水もれの原因)
- 給排水の配管は、必要に応じて保温筒などの凍結対策、結露対策をする
- 配管は要所に継手を設けて分離できるようにする (メンテナンスや本体をずらす場合に作業性を確保するため)

<給水について>

- 水道水または、飲料水基準を満たした井戸水などを使用する
- 本体の給水ホースは水栓に接続する。給水管には直接接続しない
- 水栓は、本体の給水ホース (長さ約 1.7m) に余裕を持たせて接続できる位置に設ける (地震などで本体が揺れた際にホースが抜けないようにするため)
- 給水管からの分岐部に水栓を設ける場合、水栓までの工事は水道局の指定工事業者が施工する。
- 本体への給水圧は 0.1 ~ 0.74MPa にする
0.74MPa 以上の場合 : 減圧弁を接続する
0.1MPa 未満の場合 : ポンプなどで加圧する

<排水について>

- 本体内蔵の排水ポンプは全揚程 8m 以下で使用する
- 以下の逆流防止対策をする (本体の排水ラインに逆止弁を設けていますが、万が一に備えて逆流防止対策をしてください)
 - ・ 排水横引き配管は下り勾配 1/50 以上にする。
 - ・ 排水本管への接続口は、排水本管内の液面より上にする。
 - ・ 圧力がかかっている排水管にはつながない。

コンセントについて

- 本体の電源プラグ (AC100V 3P アース付) に対応した壁面のコンセントに、電源プラグを直接差し込む
- 付属の 3P-2P 変換アダプタを使用する場合は、必ずアース線を接続する
- 延長コードを使用しない・タコ足配線をしてない
- コンセントは、電源コード (長さ約 3.4m) に余裕を持たせて接続できる位置に設ける (地震などで本体が揺れた際に電源コードが抜けないようにするため)

設置する (1)

1. 搬入する

搬入時の注意

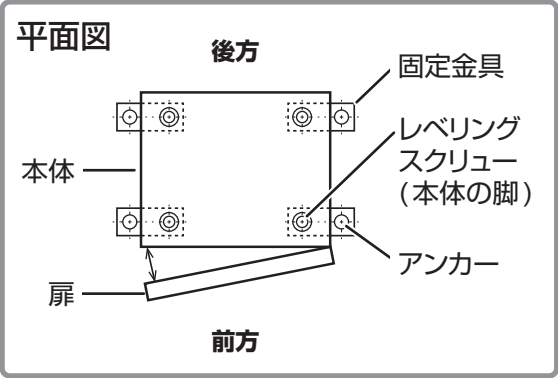
- フォークリフトなどで搬入する場合、十分な転倒防止対策をとる
- 人手による運搬の場合、運搬機材を使用し無理のない範囲で作業をする
- 製品及び周囲を傷つけないよう、十分な養生をおこなう
- 作業は複数人でおこなう（ひとりで作業しない）

2. 転倒防止対策をする

1 付属のアンカーまたは、市販の転倒防止板の準備をする

アンカーの場合

下図のようにアンカーを本体の脚（レベリングスクリュー）の位置にあわせて、水平なコンクリート地面に 4 カ所取り付ける



アンカー種類	M1260Vダイナボルト ディロックアンカー M12
必要な工具	● スパナ M12 ● コンクリート用ドリルφ 16.5 ● コンクリート穿孔用ハンマードリル
取付方法	① 穴あけ ② 差込 ③ 締付 57 ± 3mm

転倒防止板の場合

下図の寸法と本体の脚の位置にあわせて、転倒防止板にボルトを 4 カ所取り付ける

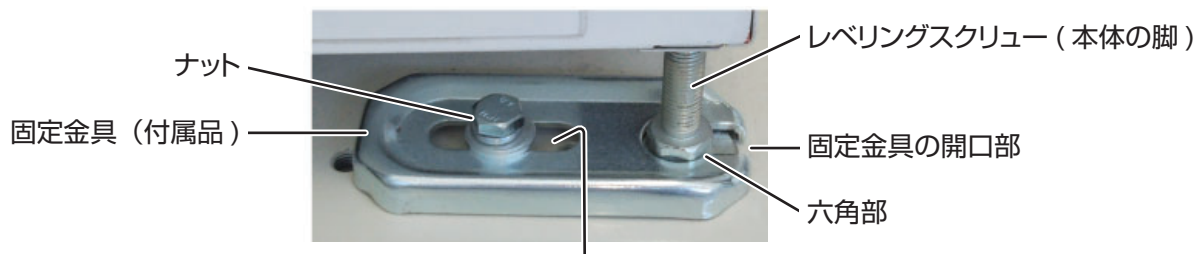
- 転倒防止板に付属しているボルトで取り付けてください。

地階または1階に取り付ける場合 【転倒防止板：800L】	2階以上に取り付ける場合 【転倒防止板：1100L】
754mm 800mm レベリングスクリュー (本体の脚) 356mm 以上 転倒防止板 本体の前側の脚から 転倒防止板の先端までの長さ	794mm 1100mm レベリングスクリュー (本体の脚) 688mm 以上 転倒防止板 本体の前側の脚から 転倒防止板の先端までの長さ

設置する (2)

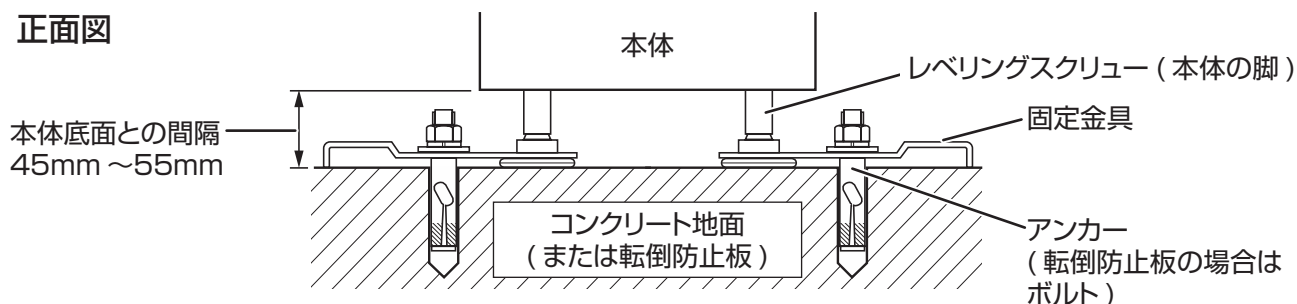
2 付属の固定金具 (4 個) を取り付ける

固定金具の取り付けイメージ (実物は写真と異なる場合があります)

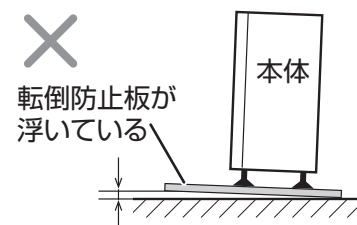


固定金具の穴をアンカーまたは転倒防止板のボルトに通す

正面図

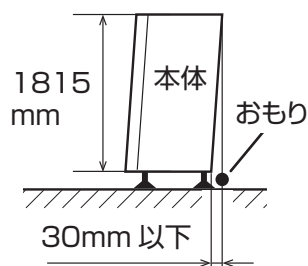


- ① 地面 (または転倒防止板) と本体底面の間隔が 45mm ~ 55mm になるように本体を設置する
- ② 【アンカーを使用する場合】
付属の固定金具の穴をアンカーのボルトに通して、アンカーのワッシャーとナットで固定金具を仮締めする
【転倒防止板を使用する場合】
付属の固定金具の穴を転倒防止板のボルトに通して、転倒防止板に付属のワッシャーとナットで固定金具を仮締めする
- ③ 本体の垂直方向の傾きが 1 度以内になるようにレベリングスクリューで調整する
転倒防止板の場合は、転倒防止板と地面の間に浮きが無いことも確認する
- ④ 固定金具の開口部をレベリングスクリューの六角部に差し込む
- ⑤ 固定金具をナットで十分に締め付ける
- ⑥ 締め付け後、本体に転倒のおそれがないか確認する



<傾き (1 度以内) の確認方法>

- ① 本体の上端からおもりの付いた糸を垂らす
- ② 本体の下端からおもりまでの水平距離が 30mm 以下になるように本体を調整する



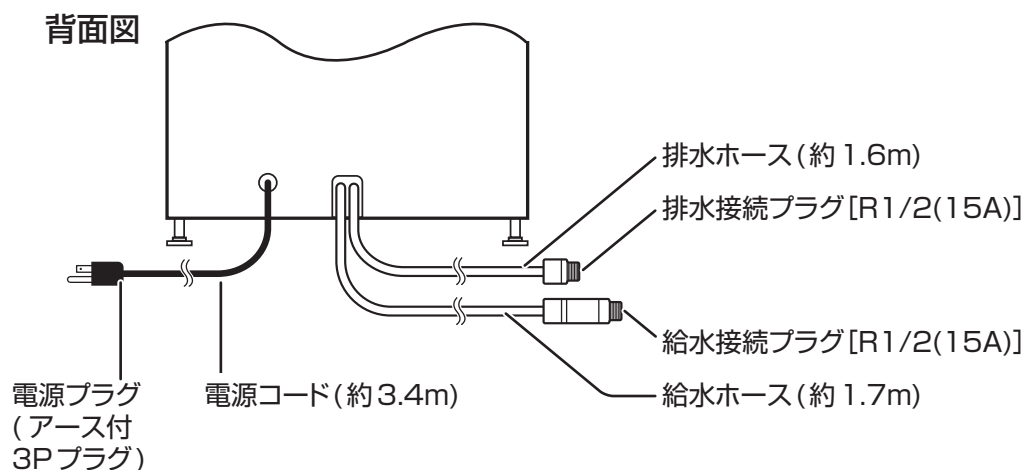
3. 給水ホースと排水ホースを接続する

4. 電源プラグをコンセントに差し込む

下図のように給水ホース・排水ホースを所定の配管に取り付け、電源プラグをコンセントに差し込む

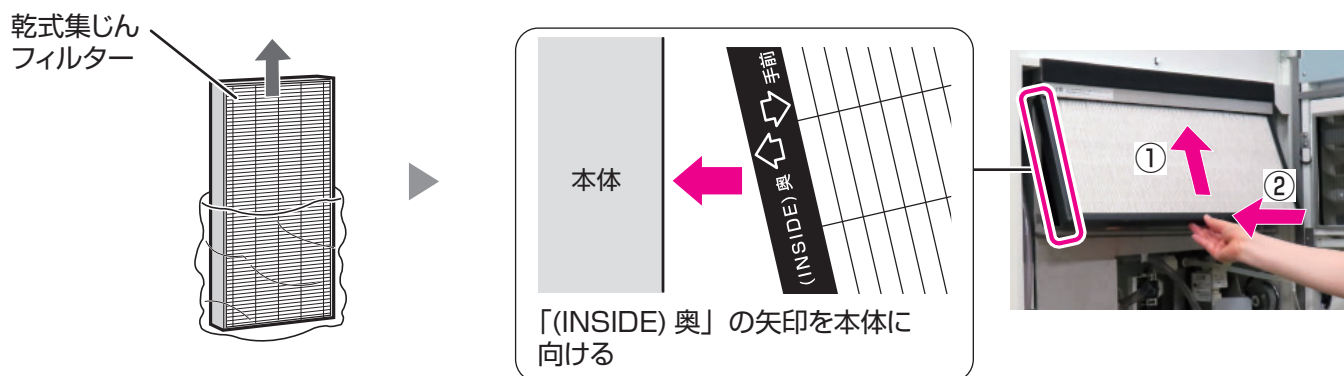
ご注意

- 給水ホースは給水栓に接続する前に、水を通すなどして切粉などの異物が配管内に無いことを確認する
- 給水ホース・排水ホース・電源コードは長さに余裕を持たせて接続する
(地震などで本体が揺れた際に電源コード・給水ホース・排水ホースが抜けないようにするため)



5. 乾式集じんフィルターを袋から取り出す

乾式集じんフィルターを袋から取り出し、本体に取り付ける



試運転をする (1)

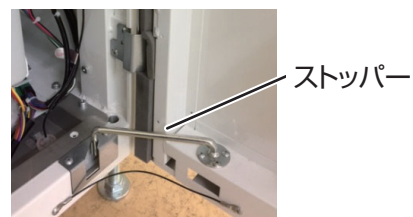
試運転の流れ

1. 薬液カートリッジを取り付ける 12 ページ
2. 電解水の生成を確認する 13 ページ
3. 噴射ノズルの噴射状態を確認する 15 ページ
4. 試運転をする 19 ページ
5. 付属の「チェックシート」を作成する 裏表紙
6. お客様に製品を引き渡す 裏表紙

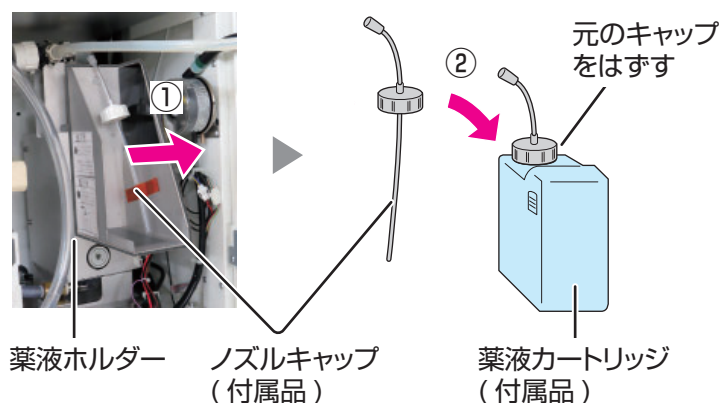
1. 薬液カートリッジを取り付ける

- ご注意**
- 必ずゴム手袋などを着用して交換する
 - 薬液がこぼれた場合は、ふき取る（付着部がさびるおそれ）
 - 薬液カートリッジを強くにぎらない（薬液が飛び出すおそれ）

1 ストッパーを引き出して、扉をロックする



- ### 2
- ① ノズルキャップを薬液ホルダーからはずす
 - ② 薬液カートリッジのキャップをノズルキャップに付け替える



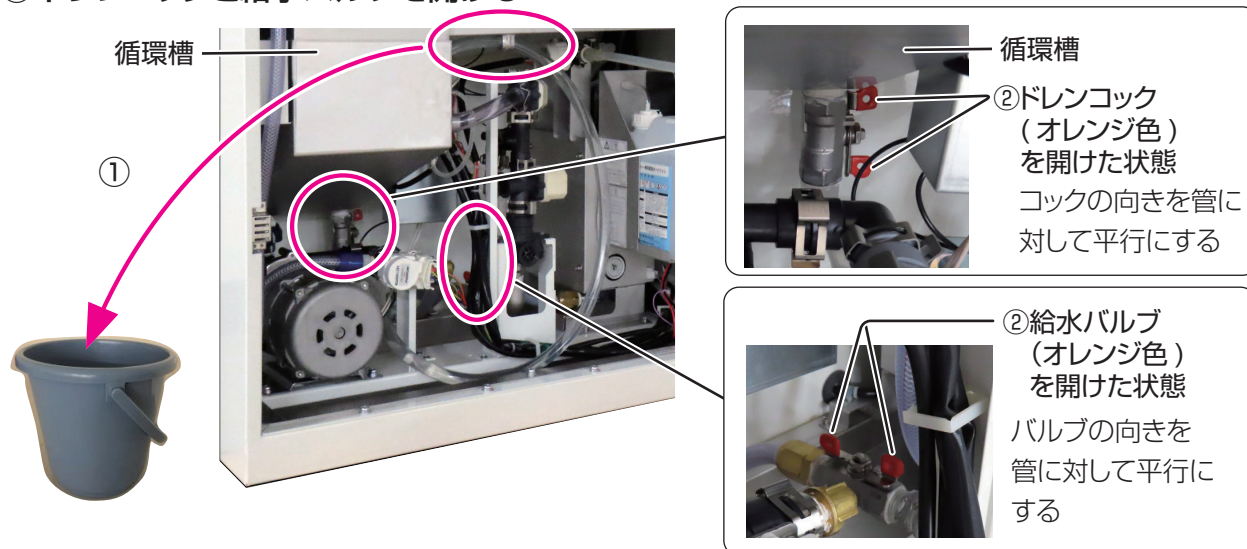
3 ノズルキャップのコネクタを本体に差し込む

差し込んだあと、コネクタを時計回りに止まるまで回す



2. 電解水の生成を確認する

- 1**
- ① ドレンホースの先端を金具からはずして、バケツに入れる
 - ② ドレンコックと給水バルブを開ける

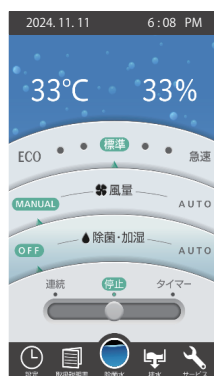


2 電源を「入」にする



起動画面が表示されたあと、
操作画面が表示される

操作画面



3 手動操作画面を開く

- ①画面右下の「サービス」を押す



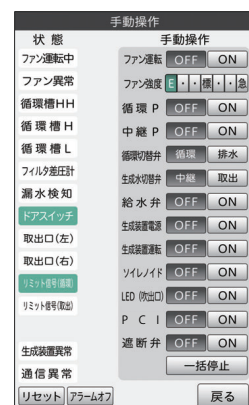
- ②パスワードを入力して「確定」を押す



- ③「手動操作」を押す



- ④「手動操作」画面が表示される



試運転をする (2)

4 電解水の調整をする

- ① 手動操作画面（右図）で、(1)【遮断弁】、(2)【生成装置電源】、(3)【生成装置運転】の順に ON にする

- 【生成装置運転】を ON にすると、ドレンホースから電解水が流れます。バケツで電解水を受けてください。

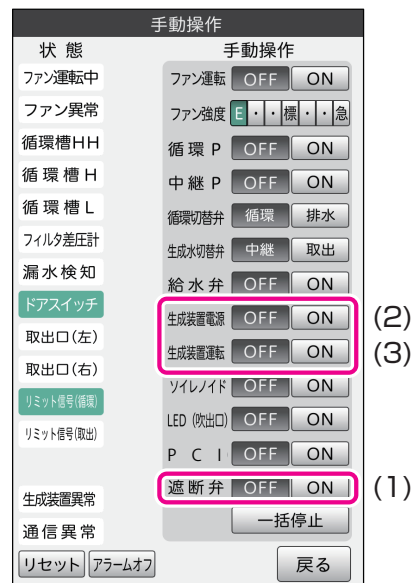
- ② 電解水を流している間に、下表のエラーを表示した場合は処置をする

エラー表示・症状	原因	処置方法
【循環槽HH】赤点灯・運転停止	ホースのねじれなどにより、ドレンホースから排水できずに循環槽が満水になった	ホースのねじれを修正し、たまった水をドレンホースから排水する（排水すると循環槽 HH が消灯します）
【生成装置異常】赤点灯・運転停止	生成装置内の薬液濃度調整中に何らかのエラーが発生した（本体の異常ではありません）	【生成装置運転】を OFF にする
【生成装置異常】点滅		そのまま運転を継続する（しばらくすると【生成装置異常】が消灯します。リセット操作は不要です）

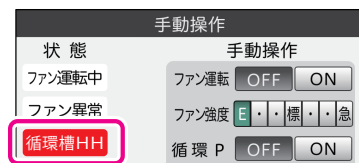
- ③ エラー処置後は、画面左下の「リセット」を押してエラー状態をリセットし、上記①の操作を再度おこなう

- エラーは繰り返し表示されます。エラーが 1 分以上表示されない状態になるまで、処置を繰り返してください。（製品によって 10 分以上かかる場合があります）
- 電解水の流出を一時停止する場合は、【生成装置運転】を OFF にする（バケツの水を排水するときなど）

手動操作画面



エラー表示例



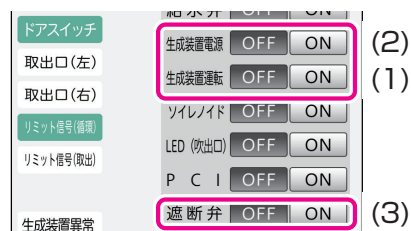
リセットボタン



- 5 ① エラーが 1 分以上表示されない状態になったら、(1)【生成装置運転】、(2)【生成装置電源】、(3)【遮断弁】の順に OFF にする

- ② バケツの電解水に pH 試験紙とクロール試験紙をひたして数値を確認する

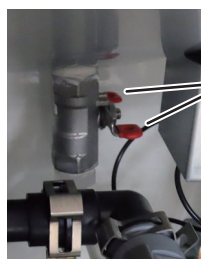
- 正常値：pH5.0 ～ 6.5、有効塩素濃度 10ppm 以上
- pH が極端に低い場合や、有効塩素濃度が 0ppm の場合は、生成装置異常の可能性あります。



- 6 ① ドレンコックを水平にして閉じる

- ② ドレンホースの先端を金具にかける

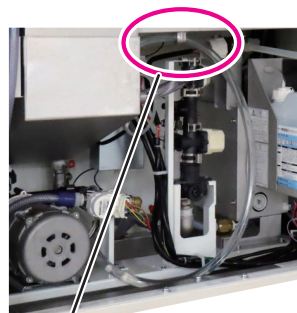
①



ドレンコック（オレンジ色）を閉じた状態

コックの向きを管に対して直角にする

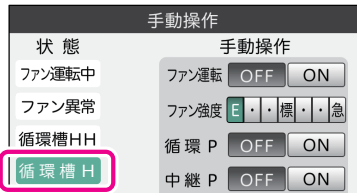
②



ホースの先端を金具にかける

3. 噴射ノズルの噴射状態を確認する

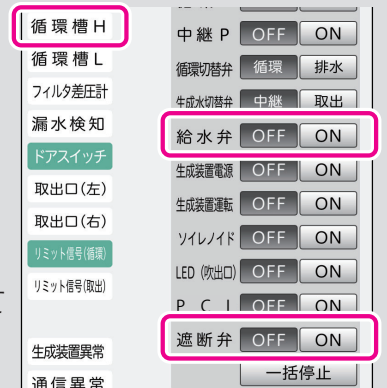
1 【循環槽 H】 が緑に点灯していることを確認する



●【循環槽 H】 が消灯の場合

- ① 【給水弁】 を ON にして、【循環槽 H】 が点灯するまで循環槽に水を入れる
- ② 【循環槽 H】 が点灯したらすぐに、【給水弁】 と【遮断弁】 を OFF にする

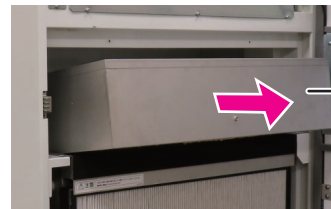
(注) 【給水弁】 はすぐに OFF してください。循環槽から水があふれる場合があります。



2 エリミネータカバー ⇒ エリミネータの順にはずす

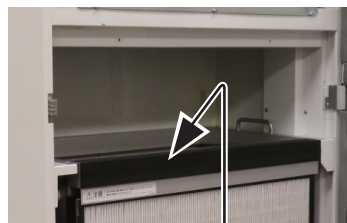


エリミネータカバー
ネジ (5 カ所) を
ドライバーではずす



エリミネータ
手前に引き出す

- ① 【循環P】 をONにして、噴射ノズル (3 カ所) の噴射状態を 10 秒程度確認する
- ② 確認後、【循環 P】 を OFF にする (噴射が止まります)



a. 正常な状態
(霧吹きのように噴射する)



b. 噴射しない

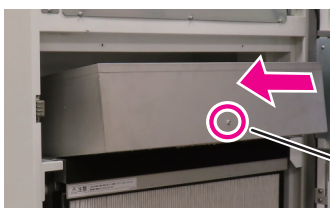


c. 少量の水が
出る

「b. 噴射しない」または「c. 少量の水が出る」の場合は、
循環槽ポンプ配管の空気抜きをする 16 ページ に進む

4 エリミネータ ⇒ エリミネータカバーの順に取り付ける

取り付け後、4. 試運転をする 19 ページ に進む



エリミネータ
ネジ穴がある面を
手前にして入れる



エリミネータカバー

ネジ (5 カ所) を
ドライバーで
取り付ける

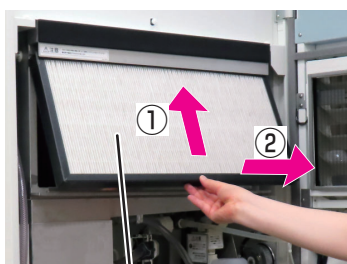
試運転をする (3)

循環槽ポンプ配管の空気抜きをする

※正常に噴射しない場合のみ、この作業をおこなう

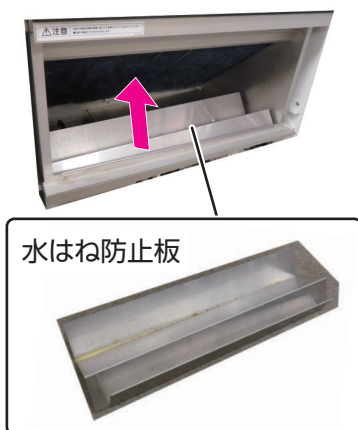
1.準備する (各部をはずす)

(1) 乾式集じんフィルターをはずす



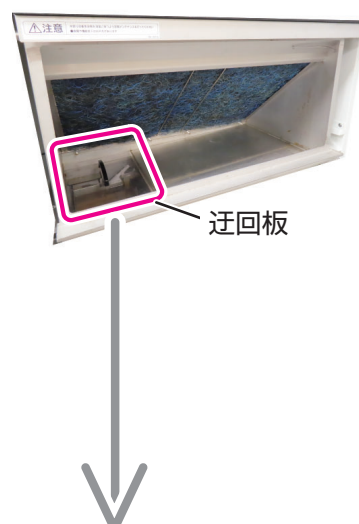
乾式集じんフィルター

(2) 水はね防止板をはずす



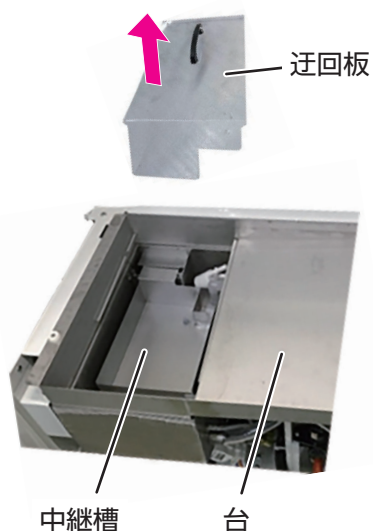
水はね防止板

(3) 循環槽の部品をはずす



迂回板

(3)-1 迂回板をはずす

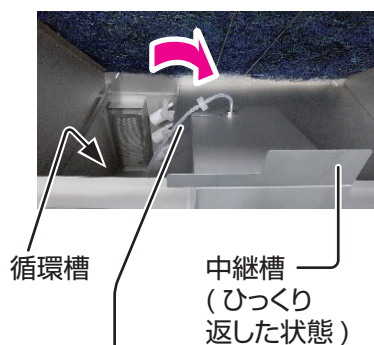


迂回板

中継槽

台

(3)-2 中継槽はチューブをつけたまま、ひっくり返して台の上に置く (中継槽内の水は循環槽に移す)

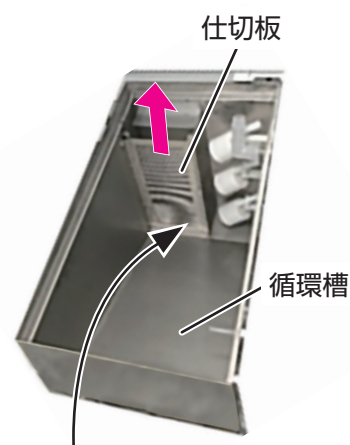


循環槽

中継槽
(ひっくり返した状態)

チューブを折り曲げたり、ねじったり、挟み込んだりしない

(3)-3 仕切板を抜く



仕切板

循環槽

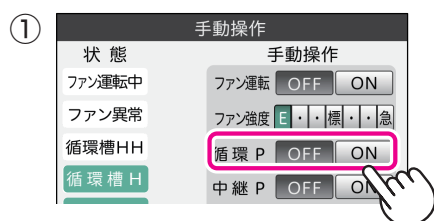


仕切板を抜くと、循環槽ポンプ配管の穴が見える

2. 空気抜きをする

噴射ノズルが噴射しない場合

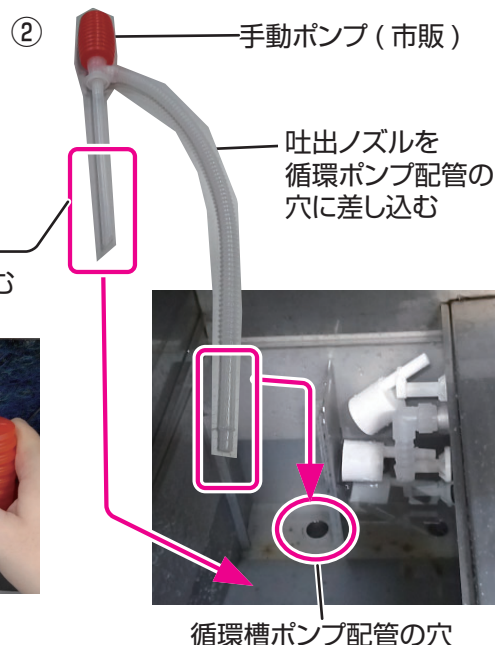
- ① 【循環 P】 を ON にする
- ② 噴射ノズルから少量の水が出るまで、
手動ポンプで循環槽の水を循環ポンプに送る
- ③ 少量の水が出るようになったら、下記
「噴射ノズルから少量の水が出る場合」
に進む



イメージ図



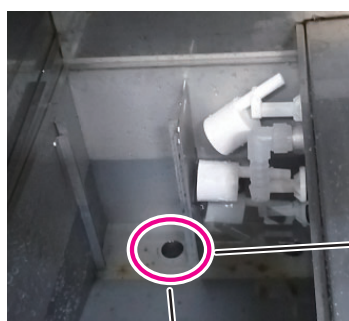
吸込ノズルを
循環槽に差し込む



噴射ノズルから少量の水が出る場合

1 循環槽ポンプ配管から空気が抜けるまで①と②の操作を 10 回程度繰り返す

- ① 【循環 P】 を 5 秒間 ON にしたあと、OFF にする
⇒ 循環槽ポンプ配管の穴から気泡が出る
- ② 気泡が出なくなったら、再度①の操作をおこなう



循環槽ポンプ配管の穴



気泡 (イメージ)

- 【循環 P】 ON/OFF 回数と
気泡の出かたの目安
- 1 ~ 4 回目: 数個の気泡
- 5 ~ 7 回目: 多量の気泡
- 8 ~ 10 回目: 数個の気泡

2 ① 【循環 P】 を ON にして噴射ノズル (3 カ所) の 噴射状態を確認する

- ② ・ 正常に噴射した場合は、【循環 P】 を OFF にして
3. はずした部品を取り付ける **18 ページ** に進む
- ・ 正常に噴射しない場合は、再度手順 1 をおこなう



正常な状態
(霧吹きのように噴射する)

試運転をする (4)

3. はずした部品を取り付ける

1

(1)-1
仕切板はおもて面を
手前にして差し込む

仕切板
循環槽

仕切板の
うら面は、
網の溶接跡が
あります

(1)-2
中継槽はチューブをつけた
まま、ひっくり返して元の
位置に戻す

中継槽
(ひっくり
返した状態)

チューブを折り曲げたり、
ねじったり、挟み込んだり
しない

(1)-3
迂回版を取り付ける

迂回版の
端が長い方を
手前にする

中継槽

し字コネクタ
(電解水吐出口)
の先を下に向ける

(1) 循環槽の部品を
取り付ける

迂回版

(2) 水はね防止板を
取り付ける

前側の溝を本体の
ふちにかける

(3) 乾式集じんフィルターを
取り付ける

①
②

2

エリミネータ ⇒ エリミネータカバーの順に取り付ける

エリミネータ

ネジ穴がある面を
手前に入れて

エリミネータカバー

ネジ (5 カ所) を
ドライバーで
取り付ける

4. 試運転をする

1 操作画面に戻る

①画面右下の「戻る」を押す



②画面右下の「ホーム」を押す

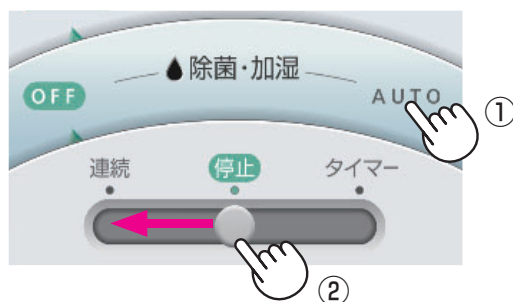


③操作画面が表示される



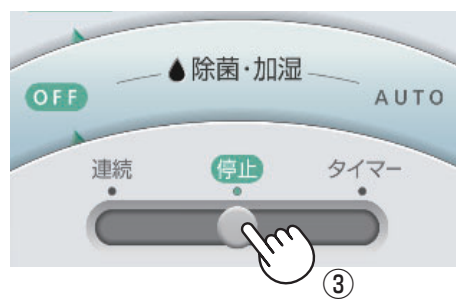
2 本体の扉を閉めて、通常運転を 10 分間おこなう

- ①「除菌・加湿」の「AUTO」を押す
- ②「連続」にレバーを合わせて運転をスタートする



10 分間
運転する

- ③「停止」にレバーを合わせて運転を停止する

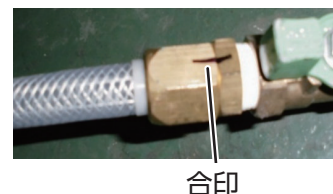


- 湿度が設定値（初期値：50%）以上ある場合は、加湿セーブ機能により噴射しません。この場合は運転を停止して本体の電源を「切」にしてください。再度電源を「入」にして上記の設定で運転してください。（画面右上に「立ち上げ中...」を表示しながら運転します）

3 ① 本体の扉を開けて、配管まわりに水もれがないか目視と触診で確認する

- ② 給水ホースと排水ホースの継手に油性ペンで合印をつける
 - メンテナンス時にホースのゆるみを確認するために合印をつけます。

- ③ 本体の扉を閉める



5. 付属の「チェックシート」を作成する

「チェックシート」の項目に従って本体を確認・設定する

- 「稼働状況」各項目の設定方法については取扱説明書（詳細版）の「各種設定変更」をご確認ください。右の QR コードからダウンロードできます。

取扱説明書（詳細版）

https://jp.sharp/restricted/support/manual/air_purifier/kim1800_mn.pdf



6. お客様に製品を引き渡す

- ①「チェックシート」にお客様の確認印をいただいて、製品を引き渡す
- ②「チェックシート」を下記の宛先に送る

【チェックシート送付先】

株式会社クボタ計装

FAX：03-3245-3919

メール：kbt_g.pw@kubota.com

お問い合わせ先



使いかた・修理などのご相談窓口

☎ 0120 - 033 - 362

受付時間（年末年始を除く）

- 月曜～土曜：9:00～18:00
- 日曜・祝日：9:00～17:00

■フリーダイヤルがご利用いただけない場合は…

電 話	FAX
050 - 3852 - 5405	06 - 6792 - 5993

シャープ株式会社

本 社 〒 590-8522 大阪府堺市堺区匠町 1 番地